



寿福寺の秋の彩り



歴史を刻む針尾無線塔



ゴシック様式の駅前教会



夕焼けの九十九島

プログラム・入選作品

海と山、そして異国文化が入り混じる環境の中で、
佐世保の歴史と文化に触れながら俳句を嗜む

させぼ「俳句の祭典」

改訂版

ながさきピース文化祭2025

させぼ「俳句の祭典」

●開催日 令和7年10月26日(日) ●会場 アルカスSASEBO

文化をみんなに

第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭
ながさきピース文化祭2025
令和7年9月14日(日)~11月30日(日)

主催

文化庁 厚生労働省 長崎県 第40回国民文化祭、
第25回全国障害者芸術・文化祭長崎県実行委員会 佐世保市
第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭佐世保市実行委員会
(公社)俳人協会 (一社)現代俳句協会 (公社)日本伝統俳句協会

式次第

第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭

ながさきピース文化祭2025 させぼ 「俳句の祭典」

（海と山、そして異国文化が入り混じる環境の中で、佐世保の歴史と文化に触れながら俳句を嗜む）

1 開催日 令和7年10月26日（日）

2 会場 俳句大会…アルカスSASEBO中ホール（佐世保市三浦町2番3号）

3 日程

当日句投句受付

8時30分～11時30分

アルカスSASEBOエントランスホールで当日句投句用紙配付

俳句大会

12時00分 開会式、挨拶

記念講演

12時30分 講師 吉岡 乱水氏（日本伝統俳句協会会長長崎部会長）

表彰式（事前句）

13時30分 小・中・高校生の部 入賞作品発表 表彰

一般の部 入賞作品発表 表彰

選評

休憩

14時30分

表彰式（当日句）

15時15分 当日句 入賞作品発表 表彰

選評

スペシャルトークショー

16時00分 フルーツポンチ 村上 健志氏

閉会

17時00分（予定）

吉岡 乱水氏

昭和十一年四月二十一日生まれ

昭和三十五年 國學院大學文学部卒業 長崎県高等学校教諭に任用

昭和四九年 ホトトギス入会

平成九年 長崎県高等学校校長定年退職

令和六年五月 叙勲 瑞宝小授章

現在 ホトトギス同人・俳誌「太白」代表

日本伝統俳句協会会員

長崎県俳人会副会長 長崎県文芸協会理事

長崎国際文化協会常任理事

諫早市文芸協会会長・諫早俳句会会長

日本現代詩歌文学館理事

長崎新聞俳壇選者

句集上梓 第一句集「かりがね」 第二句集「白玉」 第三句集「不知火」

目次

文部科学大臣挨拶	1
厚生労働大臣挨拶	2
長崎県知事挨拶	3
佐世保市長挨拶	4
募集投句入賞作品	6
募集投句選者別入賞作品（小、中、高校生の部）	12
募集投句選者別入賞作品（一般の部）	32
応募数集計表	56



あいさつ

文部科学大臣 あべ 俊子

第40回国民文化祭が、9月14日から11月30日までの78日間にわたり、長崎県内各地において盛大に開催されることとなりました。

国民文化祭は、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業などの各関連分野における施策と有機的に連携しつつ、地域の文化資源等の特色を生かした「文化の祭典」です。また、各種の文化活動を全国規模で発表、共演、交流する場を設けるとともに、それらの活動により生み出される様々な価値を文化の継承、発展及び創造に活用し、文化芸術の一層の振興に寄与するものとして、昭和61年から開催されて以来、今回で40回目を迎えます。

長崎県は、古くから日本の海外交流の窓口として、先進の文化と技術を受け入れ、日本の近代化に大きく貢献してきました。西洋と東洋が融合した独自の文化的景観や食文化、伝統芸能が脈々と受け継がれており、長崎の物語性を今日に伝えていきます。近年、長崎の歴史を象徴する遺産群が世界遺産に登録され、価値ある文化遺産を将来にわたり継承する取組が活発に行われています。また、令和7年は被爆80年の節目の年であり、本大会でも文化芸術を通して平和への願いを継承する事業が数多く予定されています。

本大会に参加される皆様には、長い交流の歴史が培った長崎県固有の文化を肌で感じていただき、本大会のキャッチフレーズである「文化をみんなに」とおり、異なる文化や国籍、価値観をもつ人たちが一緒に文化芸術を楽しみ、交流を通じて生まれた文化の魅力と平和への願いを長崎から国内外に発信する大会となることを心から祈念しております。

また、本大会は、「ながさきピース文化祭2025」として、第25回全国障害者芸術・文化祭と一体的に開催されています。障害の有無に関わることなく、様々な交流を通じて、あらゆる人々が芸術文化に親しむことのできる共生社会の実現に寄与されることを大いに期待しております。

文部科学省においても、活力ある社会を形成するため、第2期文化芸術推進基本計画に基づき、日本遺産等の地域の文化資源を通じた文化観光の推進と地域文化の振興に取り組むことで、「文化芸術と経済の好循環」を加速し、文化芸術立国の実現に努めます。

結びに、開催に当たり格別の御尽力を頂きました長崎県、開催市町、文化団体をはじめ、関係する全ての皆様に深く感謝申し上げます。

※あいさつは令和7年9月にいただいたものです。



ごあいさつ

厚生労働大臣 福岡 資麿

「ながさきピース文化祭2025」の開催に当たり、主催者の一人として御挨拶を申し上げます。

長崎県で全国障害者芸術・文化祭が開催されるのは、平成19年度に次いで2度目であり、さらに今回は、「第40回国民文化祭」及び「第25回全国障害者芸術・文化祭」を一体的に開催できることを心より喜ばしく思います。

全国障害者芸術・文化祭は、障害のある方々が芸術文化活動を通じて自己を表現し、生活を豊かにするとともに、国民の障害への理解を深め、障害のある方々の自立と社会参加の促進に寄与することを目的としています。障害のある・ないに関わらず、すべての人がお互いを尊重しながら共生する社会の実現につながることを祈念しております。

本大会は、「文化をみんなに」をキャッチフレーズに掲げ、様々な心身の特性や考え方を持つすべての方が、「みんな」で楽しめるよう、豊かな自然や歴史情緒溢れ、平和を発信し続ける長崎県を舞台に開催される文化・芸術の祭典です。障害のある方々が手がけた作品を展示する作品展や、平和及びアートとのふれあいをテーマに障害のある人となない人が共に参加するワークショップ、詩や音楽を披露するコンサート等の舞台公演など、様々なイベントが開催されます。まさにキャッチフレーズのように、魅力ある作品に「みんな」で触れて「みんな」で楽しんでいただき、障害のある・ないを超えて人と人がつながる文化の祭りとなることを期待しております。

厚生労働省では、本大会と連携した「サテライト開催事業」により、全国各地で障害者による芸術・文化イベントの開催を予定しています。長崎県の芸術・文化の魅力を全国に伝え、障害のある方の芸術文化活動の振興を図ってまいります。結びになりますが「ながさきピース文化祭2025」の開催に当たり、格別の御尽力をいただきました長崎県、県内市町、文化団体、障害者関係団体をはじめ、関係する多くの皆様に深く感謝申し上げます。

※ごあいさつは令和7年9月にいただいたものです。



ごあいさつ

長崎県知事 大石 賢吾

「ながさきピース文化祭2025（第40回国民文化祭）及び「第25回全国障害者芸術・文化祭」」が9月14日から11月30日までの78日間、ここ長崎の地で開催できますことは誠に喜ばしいことであり、ご参加いただく皆様を心から歓迎いたします。

令和7年は、被爆から80年、長崎県美術館及び長崎歴史文化博物館開館20周年、中華人民共和国駐長崎総領事館開設40周年など本県にとって大きな節目の年であります。このような年に、本県初となる国民文化祭、今回で2度目となる全国障害者芸術・文化祭を開催することは、文化芸術の振興はもとより、平和の大切さや海外との交流の推進、共生社会の実現に繋がるものと考えております。

本県は、本土の最西端に位置し、大陸との長い交流の中で特色ある歴史・文化を育み、2つの世界文化遺産や4つの日本遺産のほか、多くの文化資源を有しております。本文化祭では、「文化をみんなに」のキャッチフレーズのもと、海外からの影響を色濃く受けた本県独自の文化や離島ならではの歴史、各地域で取り組まれている芸術活動など、魅力溢れる多種多様なプログラムを県内各地で開催いたします。

大会期間中は、長崎らしい文化・歴史・芸術をお楽しみいただくとともに、風光明媚な自然や情緒溢れる街並み、魚種日本一と言われる水産物や新鮮な農畜産物、ご当地グルメなど、県内各地に足を伸ばしていただき、本県の魅力をご堪能いただければ幸いです。

結びに、本県での開催に格別のご支援・ご協力をいただきました全ての関係者の皆様から感謝申し上げます、ご挨拶といたします。



ごあいさつ

佐世保市長 宮島 大典

ながさきピース文化祭2025分野別交流事業「俳句の祭典」が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

『俳句の祭典』は、いわゆる文化の全国大会に当たる分野別交流事業として開催されており、ここ佐世保の地に全国から集まった思いのこもった俳句を発信することができる、素晴らしい祭典が実現しましたことを、大変嬉しく思います。

本祭典では、事前に詠んでご応募いただいた事前句と、祭典当日にテーマに沿って句を詠んでいただく当日句の二種類を準備しており、俳句の腕に覚えのある方も、これを機会に初めて俳句に触れてみた方も、幅広くご参加いただけるものとしております。

また、この祭典に合わせて、「吟行バスツアー」も実施しております。

このツアーは3つのコースを設定して当日句の参考に佐世保の名所を巡るもので、佐世保の数ある名所の中から『針尾無線塔』、『無窮洞』、『九十九島観光公園』をそれぞれのコースの目的地に設定しております。

鎮守府の歴史や戦時の学校といった歴史文化、そして佐世保が誇る景観地でもある九十九島を一望できるスポットを巡っていたいただき、その情景を俳句に詠み込むことはもちろん、これを機にご参加いただいた市内外の皆様に佐世保のファンになっていただけたら大変嬉しく思います。

さらには、日本伝統俳句協会 吉岡乱水氏による記念講演や、お笑いコンビ「フルーツポンチ」の村上健志氏によるトークショーなども設定されており、盛りだくさんの内容となっておりますので、多くのご参加の方にお楽しみいただけますと幸いです。

結びになりますが、開催にあたりご尽力をいただきましたさせば「俳句の祭典」実行委員会をはじめ、関係者の皆様を中心に感謝を申し上げますとともに、祭典が、ご参加の皆様への風景を形に起こし、多くの人の思いと文化が交流する有意義な一日となることを祈念いたします。

募集投句

入賞作品

小、中、高校生の部

文部科学大臣賞

夕立に空き缶ひとつ踊り出す

愛知県立安城高等学校2年

江坂 咲月

国民文化祭実行委員会会長賞

水中花息苦しさは感じるの

愛知県立安城高等学校2年

盛里 優羽

長崎県知事賞

人の声雲一つなきかき氷

長崎県佐世保市立世知原中学校3年

林 佑真

佐世保市長賞

夕焼けの九十九島は宝物

長崎県佐世保市立日野中学校1年

松尾 咲彩

(公社) 俳人協会会長賞

星月夜遠くの音に耳澄ます

愛知県立安城高等学校2年

宮 島 玲 菜

(一社) 現代俳句協会会長賞

妹といつしよなねぐせ春の朝

富山県高岡市立伏木小学校5年

岩 坪 樺乃子

(公社) 日本伝統俳句協会会長賞

かぜひいてなぞなぞの本ひとりよむ

埼玉県鴻巣市立鴻巣中央小学校2年

西 多 晃 都

一般の部

文部科学大臣賞

新任の神父来てをり農具市

長崎県 牛飼 瑞 栄

国民文化祭実行委員会会長賞

知恵の輪に遊ばれている夜長かな

山形県 星 幸 陽

長崎県知事賞

七夕や美人にしてと書いてあり

長崎県 川 岡 末 好

佐世保市長賞

鉄条網越えアメリカの蝶となる

長崎県 牛 飼 瑞 栄

(公社) 俳人協会会長賞

人は皆大根役者沙翁の忌

長崎県 篠崎清明

(一社) 現代俳句協会会長賞

星涼し書き終へし文たたむとき

東京都 伊藤順子

(公社) 日本伝統俳句協会会長賞

炎天下潜水艦の甲羅干し

福岡県 塩川竜象

募集投句

選者別入選作品

〔小、中、高校生の部〕

選者氏名

前北	拔井	対馬	辻原	阪西	後藤	栗林	久保	鴛渕
かおる	諒一	康子	晩夏	敦子	章	白霜	純夫	和明

(五十音順・敬称略)

《特選》

君が好きけれども会えない夏休み

長崎県日野中学校 岩 永 奈 弥

【選評】

夏休みが楽しいとは限らない。学校内の身近な人に好意を打ち明けられていない者に取っては、一カ月以上の空白はつらい。夏休みが早く終わって欲しい。そうすればまた、挨拶したり、さり気なく話したり出来るのに。

戯れる姉妹見守る雪だるま

愛知県安城高等学校 深 津 美 雲

【選評】

作者は自分を客体化している。「アナと雪の女王」の一シーンのようだ。雪の中でたわむれる作者姉妹を見守っている雪だるまはだれか？この二人にはどのような運命が待ち構えているのか？興味をそそられる。

新緑は芽吹く生命の音色かな

愛知県安城高等学校 伊 藤 潤

【選評】

新緑を音色と捉えているところがすばらしい。成長すればほぼ同じような緑色になる草木も、芽吹きからしばらくは固有の色をしている。同種の草木も一本ずつ違った色をしている、それを作者は「生命の音色」と言っているのだ。

《入選》

図書いいんカードにはんこをうって春

アパートの四階までも散る桜

青葉道スパンコールの日の光

春の風紙飛行機がまどを出る

雪だるま何も着ないでだいじょうぶ

サッカーをやめますちよつと寒い春

空を舞うピンクの花びら春の遺書

水溜りどこからきたのあめんぼう

大歓声ゴールゆらした五月晴

水中花息苦しさは感じるの

夢詰めた正月太りのこのお腹

遠くから鳥のこえして芽がひらく

富山県伏木小学校 高寺海斗

山口県下松工業高等学校 大田琳太郎

長崎県祇園中学校 倉岡紗希

富山県伏木小学校 渡辺崇右

長崎県江上小学校 山口よつ葉

富山県伏木小学校 脇田千大

愛知県安城高等学校 松永あゆみ

長崎県祇園中学校 竹原颯人

長崎県日野中学校 富山柊斗

愛知県安城高等学校 盛里優羽

愛知県安城高等学校 中尾龍斗

長崎県深堀中学校 小畑こなみ

《特選》

水中花息苦しさは感じるの

愛知県安城高等学校 盛里優羽

【選評】

大切な人への贈り物である水中花。そのさまざまなかたちが相手への想いを伝える。しかし、実際には花も人もある種の息苦しさを感じているという。その作者の感受性は生きる姿勢の確かさである。

母つくる味が濃いめの筍炒め

長崎県鹿町中学校 石川 渉

【選評】

家庭にはそれぞれ独自の味付けがある。しかしこの味、どこかで比較するまではわからない。ある時、作者はこの筍を炒めた味が濃いとわかった。新しい体験があったのだろう。母の存在、愛情がきわ立っている。

ブランコよ妹こえて風光る

長崎県世知原中学校 山本心美

【選評】

春もたけなわ。ブランコを漕ぐ力も強くなる。たぶん立って漕ぎ、勢いをつけているのだろう。光まぶしい中、少し離れて立つ妹の上にまでブランコが動く。家族のだから、この漕ぎ手だろう。愛があふれている。

《入選》

水たまり映る雲だけうごいてる

長崎県深堀中学校 小畑 こなみ

梅雨入りし筋トレばかりの運動部

長崎県祇園中学校 橘 高里 奈

冬の夜右足が出てなんかこわい

長崎県福石中学校 八 田 遼 星

カマキリよかつこいいから出ておいで

長崎県江上小学校 池 上 蒼 央

かき氷靴を脱いでる子どもたち

長崎県相浦中学校 楠 本 皓 大

アスファルト蟬時雨をも反射して

長崎県日野中学校 山 中 潤

大そうじぼくのしごとはおちばひろい

富山県伏木小学校 山 森 結 翔

げんかんに長ぐつならぶ梅雨の朝

長崎県早岐小学校 八 木 佑 樹

ひと休みパドルを置けば潮の香り

長崎県深堀中学校 井 下 夢 心

かき氷時のすすみを教えてる

愛知県安城高等学校 田 中 詩 乃

兵の影眠る岬に昼螢

兵庫県大阪女学院高等学校 菅 野 ころ

溶けていくアイス頬張る平和かな

長崎県日野中学校 坪 田 彩 愛

《特選》

夕焼けの九十九島は宝物

長崎県日野中学校 松尾咲彩

【選評】

約二百余の島よりなる九十九島は、植物、野鳥、水生生物の宝庫である。夕日の沈む刻は、どの地域から見ても、いかなるものにもかえがたい絶景である。住んでいる町を誇らしく俳句に詠んでいる。

春風にバトンをわたす体育祭

長崎県鹿町中学校 桃野珠央

【選評】

学校の行事の中でも楽しみなのが体育祭。リレーのバトンを渡すのが春風だとは。渡された春風も弾んでいる。

菜の花の香り広がる展海峰

長崎県浅子小中学校 楠本美羽

【選評】

九十九島を一望できる展望台、展海峰は、海と空の青を十分に望み、ふり返れば丘には一面の菜の花が香りと彩りを添えてくれる。

《入選》

九十九鳥きれいな海の風薫る

長崎県日野中学校 松永大輝

佐世保漁港見える夕日がきれいだぜ

長崎県日野中学校 深水一映

カブトムシあしは何本？じつと見る

長崎県江上小学校 井手彩友奈

部活動汗光りだすグラウンド

長崎県世知原中学校 楠浦理緒

妹ととり合いになる扇風機

長崎県日野中学校 福井玲那

すいかわり声を頼りに闇歩く

長崎県世知原中学校 中村天音

夕やけに影がはつきりパールシー

長崎県浅子小中学校 高橋航汰

鷹渡る九十九島の明けの空

長崎県日野中学校 伊久幸佑

兄は赤ぼくは白団運動会

富山県伏木小学校 高寺海斗

ランドセル背中に春をせおってく

長崎県精道三川台中学校 増田絆空

ドキドキだ幼虫クワガタになつてくれ

長崎県日野小学校 吉富圭真

上見るとツバメの赤ちゃん勢揃い

兵庫県須磨翔風高等学校 上垣光翔

《特選》

母さんのわかめのスープおかわりする

富山県伏木小学校 山 香葉

【選評】

早岐瀬戸の若布であろうか。そのわかめで母さんが作ってくれたスープをおかわりした。それだけで美味しい事がわかる。

妹といっしょなねぐせ春の朝

富山県伏木小学校 岩 坪 樺乃子

【選評】

妹の寝癖を笑って鏡を見たら自分の頭にも寝癖ができていた。それが妹そっくりで気恥ずかしくなった。

夕立に空き缶ひとつ踊り出す

愛知県安城高等学校 江坂 咲月

【選評】

雨だれが空き缶を打って音を出していることを「踊り出す」と描いたところが良い。夕立であるから納得する。

《入選》

遠くから鳥のこえして芽がひらく

長崎県深堀中学校 小畑 こなみ

向日葵や空を眺めてまぶしそう

長崎県祇園中学校 岸川 迦凛

こがらしがいろんな葉っぱはこんでる

高知県高岡第一小学校 小山 桜奈

雨降ってどこに行くのかカタツムリ

長崎県祇園中学校 古井田 亜美

晴天に鳥とみまごうアゲハチヨウ

長崎県日野中学校 奥 蘭飛輝

ひまわりの横にならんでせいくらべ

長崎県早岐小学校 中村 真

グラタンをふうふうしてるそとはゆき

富山県伏木小学校 舟本 匡吾

夕立や稲佐の坂に鈴の音

長崎県精道三川台中学校 高上 洸史

雪だるままだまってるねまた明日

愛知県安城高等学校 新穂 庵

ブランコよ妹こえて風光る

長崎県世知原中学校 山本 心美

水中花息苦しきは感じるの

愛知県安城高等学校 盛里 優羽

ブランコで春の風切る音がする

兵庫県須磨翔風高等学校 香山 翔太

《特選》

人の声雲一つなきかき氷

長崎県世知原中学校 林 佑真

【選評】

動詞を使わずに、名詞でつながれた句。しかも、雲はないのです。そのかわりに見える、にぎわいのなかの青空と、その中心にあるかき氷の存在感が、ひろびろと描かれています。

梅雨が過ぎおかえり僕の野球場

長崎県鹿町中学校 吉浦大朗

【選評】

梅雨が明けて、戻ってきた太陽と青空、ひとびとの姿。それらが必要とするのが野球場です。ずっとそこにあつた野球場におかえりといっているのは僕ですが、野球場からのことばでもあります。

卒業式友達まだまだいなくなる

富山県伏木小学校 吉井英都

【選評】

卒業の達成を祝う卒業式は、別れの日でもあります。何年間かを共にして知り合ってきた友達、これを境に自らの道を選ぶ日。新生活への身軽さの一方、作者は自立への不安から目を背けません。

《入選》

四人のるいかだゆらゆら夏の池

図書いいんカードにはんこをうって春

妹といっしよなねぐせ春の朝

窓を開け夏の白いが近づく日

クリスマス一際光る好きな人

戦争を経験せずに暮らす夏

お正月車やさんで車見る

藤の花とけ込んでゆく母の顔

蟬はなく汗は流れる鳥は飛ぶ

終戦日行つて来ますの声響く

晩春の雨降り始める淡路島

せんぷうきくびふりすぎてこわれたよ

富山県伏木小学校 魚倉 暁人

富山県伏木小学校 高寺 海斗

富山県伏木小学校 岩坪 樺乃子

長崎県祇園中学校 坂田 遥香

愛知県安城高等学校 土屋 百愛

愛知県安城高等学校 金澤 春磨

富山県伏木小学校 山下 夏輝

愛知県安城高等学校 中垣 美音

長崎県佐世保北中学校 入江 蓮音

愛知県安城高等学校 鈴木 悠太

兵庫県須磨翔風高等学校 富永 絢士

長崎県早岐小学校 澤田 風

《特選》

星月夜遠くの音に耳澄ます

愛知県安城高等学校 宮 島 玲 菜

【選評】

月は出ていないが満天の星が輝く静かな夜。独りでいると何かしら音がするようだ。そんな状況を上手く捉えてまとめである。静かという語は使われていないが静けさが伝わってくる。

来年も平和の日々をクリスマス

愛知県安城高等学校 日 高 拓 真

【選評】

今の日本の平和が何時まで続くかは誰にも判らない。しかし平和であるのは誰もが判っている。クリスマスは祈りの時である。作者の素直な心がよく見える。

夢多き我がふるさとの星月夜

長崎県日野中学校 松 山 由 依

【選評】

ふるさとを「夢多き」と謳い上げる作者。そこには自分への希望をも感じ取れる。「星月夜」により秋の夜の清涼感溢れる句となった。

《入選》

ねえちゃんのおなかに赤ちゃん春の風

夕立に空き缶ひとつ踊り出す

羽蟻がどんだん着地大惨事

金色の太陽の子だたんほほは

新学期なんでもやるぜまかせとき

分数のかけ算予習桜さく

鷹渡る九十九島の明けの空

サツカーをやめますちよつと寒い春

日焼けしてせなかのかわがだっぴした

今日もまたちよ金をつかう文化の日

余燼冷ゆ緞帳おりて春愁裡

今日だけは素直になりたいこどもの日

富山県伏木小学校 ミランダ イザキ

愛知県安城高等学校 江坂 咲月

長崎県祇園中学校 岡元 星之介

長崎県江上小学校 川尻 陽海

長崎県猪調小学校 馬場 捷人

富山県伏木小学校 鶴井 絢心

長崎県日野中学校 伊久 幸佑

富山県伏木小学校 脇田 千大

高知県高岡第一小学校 佐々木 ひの

富山県伏木小学校 米田 彩夏

三重県桑名高等学校 水谷 吉欣

長崎県白南風小学校 宮前 璃久

《特選》

夕立に空き缶ひとつ踊り出す

愛知県安城高等学校 江坂 咲月

【選評】

急に降り出した夕立に道ばたの空き缶が転がっていく。「踊り出す」とは五感でつかんだ楽しい表現。ただの空き缶が生きもののように見えてきます。雨の音、缶の音、夏のおいまで伝わってくるようです。

陽炎に消えなましものを。 原爆

長崎県佐世保北高等学校 猪口 琢己

【選評】

「春の日にゆらゆらと立ちのぼるあの陽炎に消えてしまえばよかったのに。それなのに……原爆」。実現しなかった悲劇に対する強い悔恨や無念さが、若い世代からの深い願いとなつて訴えかけてきます。

青い空青い単語帳かき氷

愛知県安城高等学校 加藤 悠倅

【選評】

青空、単語帳、かき氷―夏らしさが全開です。空は自然の青、単語帳は勉強の青、かき氷は虹色かもしれませぬ。まじめに頑張る気持ちと、夏の楽しさがまじり合っていて、ことばのセンスと工夫が光る一句です。

《入選》

ランドセルはるとえがおをつめこんだ

長崎県猪調小学校 吉田 勇翔

人の声雲一つなきかき氷

長崎県世知原中学校 林 佑真

自習室海月のひかるテラリウム

山口県下松工業高等学校 松田 陸

白い息まばたきすると消えていく

高知県高岡第一小学校 八坂 美菜子

月の影凍る水面にうつしだす

長崎県深堀中学校 宮上 凜音

水風船わってしまった夏まつり

長崎県江上小学校 村中 愛梨

夕焼けにくものかいだんよんでいる

長崎県早岐小学校 吉村 優良

虫の声聞いたままの五ページ目

愛知県安城高等学校 宮川 さくら

ひまわりや顔を陽にむけ充電中

兵庫県須磨翔風高等学校 藤本 哲平

默契を遺す眼差春冥し

三重県桑名高等学校 水谷 吉欣

夕焼けに炎広がる軍艦よ

兵庫県須磨翔風高等学校 青山 颯太

紅葉や空の青さに負けぬよに

長崎県日野中学校 村上 千太郎

《特選》

かぜひいてなぞなぞの本ひとりよむ

埼玉県鴻巣中央小学校 西多晃都

【選評】

〈ひとりよむ〉なぞなぞも面白いですが、やはり友達と出し合うなぞなぞの方が盛り上がり
ます。風邪をひいて一人で部屋にいなければならぬ気持ちがよく伝わってきます。

アスファルト蟬時雨をも反射して

長崎県日野中学校 山中潤

【選評】

目がくらむほど、キラキラしているアスファルトが見えます。日差しが反射するのは当然
ですが〈蟬時雨をも〉反射するなんて。目の前の圧倒的な光や音がよく描けています。

梅雨の中布団から見た暗い昼

長崎県佐世保北中学校 松尾祐大

【選評】

梅雨の頃、布団の中で雨の音を聞いています。時計を見ると時刻はもう昼。いつもなら学
校にいますのでしょ。でも今日は〈暗い昼〉を見ています。ここらの暗さですね。

《入選》

ツーマンがひらひらゆれるながされる

そつぎようのこつかところかさようなら

遊園地蟻の隊列崩れない

グラタンをふうふうしてるそとはゆき

妹ととり合いになる扇風機

落葉ふむ誰かの声が遠くなる

かんとくの塩かけスイカでがんばれる

妹といっしょなねぐせ春の朝

青葉道スパンコールの日の光

こがらしがいろんな葉っぱはこんでる

四人のるいかだゆらゆら夏の池

もみじ散る道いっばいにみえる色

長崎県早岐小学校 永橋 彩

富山県伏木小学校 國分裕 惺

愛知県安城高等学校 手嶋 咲良

富山県伏木小学校 舟本 匡吾

長崎県日野中学校 福井 玲那

愛知県安城高等学校 澤田 玲衣

長崎県春日小学校 仙野 縁

富山県伏木小学校 岩坪 樺乃子

長崎県祇園中学校 倉岡 紗希

高知県高岡第一小学校 小山 桜奈

富山県伏木小学校 魚倉 暁人

長崎県世知原中学校 近藤 美優

《特選》

クラス替え春の階段ひとつとばし

愛知県安城高等学校 瀨田 凜

【選評】

「ひとつとばし」から、クラス替えに対する期待が伝わってきました。字余りになっているところにも気持ちこもっています。

好きなこと好きなだけする日焼けして

山口県下松工業高等学校 紙 矢 優

【選評】

夏休みに何をしたい、という俳句はたくさんありましたが、「好きなこと」とまとめたところに想像力をかきたてられました。

ふゆ休みひやく人一しゆあんきする

埼玉県鴻巣中央小学校 西 多 晃 都

【選評】

冬休みが明けたらかるた大会が行われるのかもしれない。そういったことから「ふゆ休み」ならではの俳句だと思います。

《入選》

ねえちゃんのおなかに赤ちゃん春の風

一センチ大きくなった春のくつ

雪だるまフリーキツクの壁にする

夏休み米寿の祖母とスムージー

自習室海月のひかるテラリウム

神様が牛乳こぼし天の川

にじがでたてんとうむしがよろこんだ

ランドセル背中に春をせおってく

かぜひいてなぞなぞの本ひとりよむ

ゆきあそびみんなでつくるすべりだい

春の昼白いソースのハンバーグ

陽炎に消えなましものを。原爆

富山県伏木小学校 ミランダ イザキ

富山県伏木小学校 佐藤 希海

愛知県安城高等学校 松浦 隆哉

長崎県長崎西高等学校 田川 愛菜

山口県下松工業高等学校 松田 陸

長崎県精道三川台小学校 上林 大真

長崎県猪調小学校 村田 夕凧

長崎県精道三川台中学校 増田 絆空

埼玉県鴻巣中央小学校 西多 晃都

富山県伏木小学校 竹内 絃乃

富山県伏木小学校 関 遥義

長崎県佐世保北高等学校 猪口 琢己

募集投句

選者別入選作品
〔一般の部〕

選者氏名

高永久子	坂本宮尾	小松生長	小林貴子	井上泰至	稲畑廣太郎	高野ムツオ
山田佳乃	安田豆作	星野高士	淵脇護	筑紫磐井		

(五十音順・敬称略)

星涼し書き終へし文たたむとき

東京都 伊藤 順子

【選評】

恋文をも想像するが、時間をかけて手紙を書き終え、封入しようと畳んで外を見るとすっかり夜も更けて夏の星が輝いていた。作者のほっとした心情が見て取れる。

風花や窓辺に開く福音書

大阪府 高木 音弥

【選評】

信仰の篤い人が新約聖書の福音書を窓辺で繙いている。窓の外は晴天であるにもかかわらず雪がちらちらと舞っている。何か天からの贈り物であるかのような美しさを感じる。

蝸の声の彼方の昭和かな

秋田県 鈴木 仁

【選評】

蝸の声は、夕方の日暮れの時や朝方に鳴いて何かもの寂しさを感じるが、その声に昭和を引き寄せている作者なのである。古き良き時代が感じられる。

《入選》

郭公や湖一枚の深みどり

被爆の木樹齡千年五月闇

せせらぎをゆりかごにして螢かな

引力に育つ有明海の海苔

晴天を海に落とせる炎暑かな

恋の矢を放ち卒業弓道部

豊穰の音のうねりや麦の秋

星ほどこに遠き山家の冬灯

つつじ咲く軍神墓地の風の声

青蛙慈雨に紛れる枝の上

端居して聴く海のうた星のうた

万物は鼓動のリズム山笑ふ

長崎県 奥村京子

長崎県 馬場定水

長崎県 芝崎せい子

長崎県 赤城正信

長崎県 徳一

長崎県 松本裕子

福岡県 塩川竜象

長崎県 赤城正信

長崎県 浜崎芳子

福岡県 塩川竜象

大分県 羽野泰子

三重県 小林寛久

《特選》

新任の神父来てをり農具市

長崎県 牛飼 瑞 栄

【選評】

神父様の存在が、土地の生活に根づいている様が浮かぶ。長崎だとすると納得がいく。

吾はいま海の底です扇風機

愛知県 ヒツチ 俳 句

【選評】

船底部屋か潜水艦か。冷たい海の底にありながら、「暑」がある環境への視点が鋭い。口語の報告が効果的。

陶片に二人の唐子春の風

長崎県 團 俊 晴

【選評】

もう使われることのない陶片から、唐子模様が生きて伝わってくるのも「春の風」という季語が効いているから。上品なノスタルジー。

《入選》

軍港の海は小さし春の雪

福岡県 川崎智美

十薬の花やオラシヨは口伝へ

長崎県 田中和枝

顔の無い日傘行き交ふ爆心地

長崎県 小谷一夫

淋しさのくるくる回る風車

東京都 松木昌子

長閑なる潜水艦のあたまかな

福岡県 川崎智美

洗礼名アンナ・イザベル卒業す

長崎県 福島翔

益荒男の登舷礼の日焼け顔

福岡県 塩川竜象

ツの音の講師の声やアマリリス

長崎県 高野律子

ハンバーガーがうと潰してがぶと夏

福岡県 川崎智美

一両車一直線に植田行く

長崎県 宮崎和夫

板敷きに落ちし鶏卵原爆忌

神奈川県 持田敏朗

七夕や美人にしてと書いてあり

長崎県 川岡末好

《特選》

炎天下潜水艦の甲羅干し

福岡県 塩川 竜象

【選評】

潜水艦はその名前からして、深いところに潜航しているというイメージがある。ところがこの日は海上に出ている。それを「甲羅干し」と表現することで、人間味のある面白い句になった。

海渡り大和に土着若葉風

宮崎県 宮田 佐智子

【選評】

古代、海洋民族が南から海を来てこの列島に住むようになったというのが定説である。あたかも自分が「海渡り」来たかのような表現に心がかきたてられる。はるかな歴史へと読者を連れて行く。

手風琴は出島の形花ユツカ

長崎県 松本 裕子

【選評】

歴史の教科書で、子どもの頃からなじみのある、出島のあの形。あの形を「手風琴」と見立てた表現に、なるほどと思わず膝を打つ。季語の花ユツカも異国情緒があり、長崎らしい句。

《入選》

寒明けの微艤装の護衛艦

春ゆくと土偶は膝を抱きかかへ

硝子照る秋は対馬の向かうより

帯すでにそこに在りけり柿の花

あかはら鷹胸見せつけて渡りけり

零歳で被爆し八十路長崎忌

板敷きに落ちし鶏卵原爆忌

ためらへば絵踏の海の蒼深し

朝顔やなぜ苦しそうなるつぼみ

美しき子でありしと語る長崎忌

つちふるや遊牧民の赤きラグ

解なしと記す答案ほととぎす

長崎県 立木 由比浪

京都府 芳野 珠江

長崎県 立木 由比浪

長崎県 久田 洋子

長崎県 奥村 ちか

長崎県 小谷 一夫

神奈川県 持田 敏朗

大分県 羽野 泰子

千葉県 鹿野川 小舟

兵庫県 香椎 みつゑ

長崎県 栗山 ゆかり

大阪府 高木 音弥

人は皆大根役者沙翁の忌

長崎県 篠崎 清明

【選評】

「沙翁の忌」というこの句の季語が確立されているかはさておいて、人生で悲喜劇を演ずる人々は皆大根役者であるという述懐は諧謔味があつて面白い。何よりシェイクスピアの忌がよく効いている。

知恵の輪に遊ばれている夜長かな

山形県 星 幸陽

【選評】

夜長のつれづれに知恵の輪にひとり興じているのだろうが、その様を知恵の輪にもて遊ばれているといった真逆の捉え方に俳味がある。飄逸さのあふれる秀句である。

祖父かみし跡をかむ父箱眼鏡

岩手県 相馬 定子

【選評】

長く漁労に携わってきた一家であろう。箱眼鏡での漁は箱眼鏡を口で噛んだの作業である。父もまたその漁法を受け継いだのだ。深い噛みあつがこの家族の歴史を物語っている。

《入選》

顔の無い日傘行き交ふ爆心地

いつまでも遺影は若く終戦日

星屑の降って来さうな夜を泳ぐ

ファイナーレは天へと抛る祭笠

思いきり飛び降りしかば昼寝覚め

はじまりのリズムはサンバ驟雨くる

入港の汽笛くぐもる梅雨最中

星ほどに遠き山家の冬灯

蜩の声の彼方の昭和かな

手風琴は出島の形花エツカ

病床の母しか知らず遠花火

ミスターの大きい空振り夏惜しむ

長崎県 小谷 一夫

青森県 竹浪 誠也

北海道 伊藤 玉枝

福岡県 持永 真理子

山口県 井原 三都子

長崎県 武尾 徳夫

長崎県 中村 敏子

長崎県 赤城 正信

秋田県 鈴木 仁

長崎県 松本 裕子

長崎県 並川 友子

長崎県 相川 正敏

《特選》

新任の神父来てをり農具市

長崎県 牛飼 瑞栄

【選評】

春になると農作業の準備のために開かれる農具市。野菜でも作るのであるうか、新任の神父がやって来た。地域の人びとの暮らしに融け込もうとする、生活感にあふれた聖職者の姿が浮かぶ。

朝礼へ急ぐ八月六日の子

広島県 黒木 隆信

【選評】

広島に原爆が投下されてから八十年が過ぎた。八月六日は世界平和を祈る日である。この句は上五が巧い。声高に主張を述べる代わりに、一心に学校に向かう生徒の姿を静かに描いた点が優れている。

田を植ゑて家家に灯のともりたる

佐賀県 栗林 白霜

【選評】

しみじみとした情感がある作品である。田植えが無事に済んでほっとした夜には、あたりの家の灯りもあたたかく潤んで見えるのである。

《入選》

故郷の海が四股名や五月場所

十薬の花やオラシヨは口伝へ

たつぷりと水を供へて長崎忌

被爆の木樹齡千年五月閣

ありつたけの軽トラ出でて田を植うる

鉄条網越えアメリカの蝶となる

ひとの子に知恵の輪地球に振り花

拾ひきし種朝顔は濃紫

はじまりのリズムはサンバ驟雨くる

手風琴は出島の形花ユツカ

磔刑の浜辺にひらく月見草

秋日傘畳みて抜くるアーケード

長崎県 馬場 定水

長崎県 田中 和枝

京都府 前田 みき

長崎県 馬場 定水

長崎県 前田 詠子

長崎県 牛飼 瑞栄

長崎県 荒卷 洋子

千葉県 田中 道江

長崎県 武尾 徳夫

長崎県 松本 裕子

長崎県 牛飼 瑞栄

東京都 遠藤 玲奈

鉄条網越えアメリカの蝶となる

長崎県 牛飼 瑞 栄

【選評】 基地の負ふ不自由を明るくさりげなく表現。鉄条網の向うへ去った蝶への未練は読者の心を打つ。

しばらくは大事にされる帰省かな

長崎県 湯 川 京 子

【選評】 人間味豊かで誰もが「分かる」と頷き、一寸笑ってしまいそうなユーモアが有る。よけいな事は言わず俳味が有る。

陶片に二人の唐子春の風

長崎県 團 俊 晴

【選評】 有田・三川内焼の唐子は、三人、五人、七人等が描かれている。目に入った割れた陶片には二人が遊び、季語の「春風」がやさしい。

《入選》

再会の港や父の手の日焼

水脈残しヨツトの白さ佐世保湾

九十九島いま囀りの只中に

母の手の見に触れてゐる昼寝かな

スキップは無理白靴に白状す

偵察機仰ぐ棚田の案山子かな

船長に負けず劣らず日焼の子

新顔の敬語で通す草刈日

黒南風や納屋の引戸の頑に

湧水の地球はみだす阿蘇の夏

春灯下夜間中学開校す

広き背の父に草矢の細すぎる

福岡県 川崎智美

愛知県 平田秀

長崎県 奥村ちか

長崎県 松田勝子

大分県 小田祥子

長崎県 牛飼瑞栄

長崎県 牛飼瑞栄

長崎県 吉丸京子

長崎県 高野律子

福岡県 飯田絹子

長崎県 近藤とも子

京都府 加藤草児

《特選》

Ｔシャツを絞る入道雲ふとる

長崎県 楠 富 一三代

【選評】

Ｔシャツと入道雲の遠近の対比、「絞る」「ふとる」の動きの対比が見事に調和している。

草笛に踊れ野の神山の神

岡山県 西 村 泉

【選評】

静かな草笛に呼应して、いつのまにか自然の神々が動き出した。自然賛歌の思いあふれる。

原爆忌影が肉叢さがしてる

岩手県 小 栗 不死実

【選評】

影となってしまった靈魂が永遠に失われた自分の体を探している。一度起きた悲劇は決して元に戻ることはないのだ。

《入選》

十葉の花やオラシヨは口伝へ

顔の無い日傘行き交ふ爆心地

のうぜんに蝶一頭の重すぎる

狂はねば恋とは言はず花うばら

遠い日の波を見ている夏帽子

ざぶーんと海の心臓響きけり

祖母の忌と同じなりけり長崎忌

ひとの子に知恵の輪地球に換り花

青春は跳ね返りよい新豆腐

夏の蝶ひかりに青のあると知る

母の日や仏のははと俳句詠む

蛸の声の彼方の昭和かな

長崎県 田中和枝

長崎県 小谷一夫

大分県 小田祥子

長崎県 高平保子

長崎県 森千鶴子

大阪府 日野江美

長崎県 小谷一夫

長崎県 荒巻洋子

大阪府 富永武司

福岡県 川崎智美

長崎県 高永久子

秋田県 鈴木仁

七夕や美人にしてと書いてあり

長崎県 川岡末好

【選評】

余りにも素直な内容であるとともに、表現もシンプルだ。年頃の女性というよりは、小学生、それも三、四年生と考えると面白い。必ずしも「美人」が実感できていなくて、周りの大人の影響を受けていそうだ。

万愚節集合写真皆真顔

長崎県 平田素子

【選評】

万愚節に記念写真を撮ることはなさそうだから、集合行事でたまたま撮った写真で、その日が万愚節なのだろう。偶然なのだが面白い。皆真面目腐っているのも偶然でおもしろい。

母の日やあなたに似ていく私です

長崎県 佐藤桂子

【選評】

日頃の生活態度が母に似ているというより、年を取って自分の顔を鏡で見ていると、突然親の顔に見えてくることがある。男女問わずある現象で、思わず、驚くことがある。

《入選》

穏やかなる瀬戸の海より虚子忌かな

ひきがへる密書をもつて現るる

行きずりの人の方言風若葉

古美術商漢ばかりの新茶かな

盆踊昭和の闇を連れ廻す

月下美人見せたき母に睡魔くる

人は皆大根役者沙翁の忌

白南風や幕張られビル壊れゆく

母の日に祝ふこと無く母逝けり

世の中は自己中心で溢れてる

酔いどれの古希も恋せよ夏の宵

そら豆な吾子は学校きらいかも

東京都 大西久枝

長崎県 藤野律子

長崎県 浜崎芳子

長崎県 永野潤子

京都府 山内利男

長崎県 橋本和代

長崎県 篠崎清明

長崎県 奥村京子

長崎県 川流子

長崎県 長由

兵庫県 吉田周

福岡県 智幸子

《特選》

七曜の要らぬ暮らしや昼寝覚

北海道 岡崎 実

【選評】 勤めの心配なく昼寝をむさぼる作者。「七曜の要らぬ」に実感がこもる。

アイロンのききし白シャツ結婚す

長崎県 芝崎 せい子

【選評】 白シャツで結婚を決めた人物、それを男性と見た。こういう夫婦に日本の未来を託したい。

遠い日の波を見ている夏帽子

長崎県 森 千鶴子

【選評】 口語俳句と見たが、句は恐ろしいほどの静まりを見せている。下五の夏帽子の使い方がうまい。

《入選》

顔の無い日傘行き交ふ爆心地

足早の美女に遅れてコロンの香

じゆうじゆうと竹の油を抜く五月

ポケツトにカイ口喧嘩別れの夜

初蝶や子牛の睫毛音を立て

太宰忌や白き卓布に糊効かす

飛魚飛んで隠れ耶蘇島過りけり

田打人峡の夕陽を背負ひつつ

星涼し書き終へし文たたむとき

盆踊昭和の闇を連れ廻す

どくだみや性別欄にある「その他」

笑はない男のやうな山笑ふ

長崎県 小谷 一夫

岡山県 西村 泉

宮崎県 宮田 佐智子

長崎県 久田 洋子

長崎県 高永 久子

長崎県 並川 友子

京都府 山内 利男

大阪府 竹中 則子

東京都 伊藤 順子

京都府 山内 利男

大分県 松本 みゆき

愛知県 志村 紀昭

《特選》

待ち人の来て青芝に起き上がる

福岡県 白石照子

【選評】

何でもない情景であるが、季題に勢いがあつた。時間を詠むのも俳句。喜びが伝わってきた。

知恵の輪に遊ばれている夜長かな

山形県 星 幸陽

【選評】

知恵の輪ほど難しい玩具はない。いくら夜長でも時間は足りない。そこに詩情が生まれた。

春風の中に素顔をさらしけり

東京都 山本一葉

【選評】

春風と素顔は取り合わせだが、どこかに作者自身が居た。等身大を句にしたのも手柄。春風でなければ通用しない。

《入選》

軍港の海は小さし春の雪

白南風にジャズの流るる佐世保かな

一掬の霊水甘し油照

炎天下潜水艦の甲羅干し

晴天を海に落とせる炎暑かな

九十九島海山翔けて夕立来る

角打ちは昔のままや夕涼し

蛸の声の彼方の昭和かな

鯉の背に紫金一条夏の朝

白波の湖に猛るや初嵐

花合歓やたまには手でも繫ごうか

秋日傘畳みて抜くるアーケード

福岡県 川崎智美

長崎県 光武正義

京都府 植松秀子

福岡県 塩川竜象

長崎県 徳一

長崎県 美野田利江

山口県 吉本みね子

秋田県 鈴木仁

兵庫県 香椎みつゑ

千葉県 安田蝸牛

大阪府 高木音弥

東京都 遠藤玲奈

《特選》

鐘の音の鐘を離るる長崎忌

【選評】 平和への祈りが、鐘を打つたびに全世界へと広がってゆく。

大分県 押谷 隆

祖は踏絵せしか転びでありしかと

【選評】 自分が今ここに有る事の意味。「踏絵」という季題が身中を貫く。

長崎県 前田 詠子

雪薫る空のかなたに父想ふ

【選評】 南国の雪は積つても直ぐ解けて薫り立つのだろう。根雪に埋まる北国の住人からは「薫る」という言葉はなかなか出てこないと思う。

長崎県 寒 桜

《入選》

新任の神父来てをり農具市

春の海母国へと向く殉教碑

新酒まづ水押に供へ出漁す

枇杷の汁滴り落ちる五島灘

白百合や永井隆の墓に雨

春の星しづかに針尾無線塔

雲雀野や海に向きたる献花台

いくさぶね轟めく基地や鰯の跳ぶ

梅仕事おえ雨の間に芋を挿す

岬端の一直線の植田かな

膳本に見知らぬ縁者長崎忌

山紫陽花浮力を持ちて咲きにけり

長崎県 牛飼 瑞 栄

長崎県 漣 子

長崎県 高 永 久 子

長崎県 横 山 哲 夫

長崎県 松 本 洋 子

福岡県 川 崎 智 美

岩手県 澤 口 航 悠

長崎県 山 口 黒 邑 子

長崎県 静 湖

長崎県 森 千 鶴 子

石川県 安 東 将 子

長崎県 黒 石 慶 子

日時計の影を動かす秋の声

長崎県 赤城 正信

【選評】

日差が移り日時計の影が動くと時間が過ぎていく様が見える。秋の声は秋の気配であり、万象を司る何者かの声とも感じられる。掲句は見えざるものの気配を感じさせる。

板敷きに落ちし鶏卵原爆忌

神奈川県 持田 敏朗

【選評】

板敷の床に鶏卵が落ちるとぐしゃりと潰れてしまう。原爆忌という季題によりその様子が取り返しのつかない惨禍を思わせる。原爆忌をどう詠むのかは難しいが、様々な思いを感じさせる句になっている。

星ほどに遠き山家の冬灯

長崎県 赤城 正信

【選評】

長崎は海山が近く傾斜が厳しい。見上げるようなところに山家の灯があるのだらう。それは星の一つのようにも見える。冬灯という季題で澄んだ空気や空までも感じられる。

《入選》

新酒まづ水押に供へ出漁す

流し雛この世のどこも見てをらず

おぼろ夜の思ひ出話し食ひ違ふ

親の後幼の続く踏絵かな

片寄せて風の集まる余苗

食み跡の石をかすめて鮎はしる

母の手の見に触れてゐる昼寝かな

原っぱはむかし戦場草の花

鷹渡る島に秘蔵の懺悔録

病床の母しか知らず遠花火

夜濯ぎや低き汽笛の三度ほど

風花や窓辺に開く福音書

長崎県 高 永久子

山口県 吉 浦百合子

長崎県 後 藤志津子

長崎県 赤 城正信

長崎県 澤 本喜代子

岐阜県 塚 本富士子

長崎県 松 田勝子

山口県 吉 浦百合子

長崎県 牛 飼瑞栄

長崎県 並 川友子

大分県 羽 野泰子

大阪府 高 木音弥

第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭
 ながさきピース文化祭2025
 させぼ「俳句の祭典」

～海と山、そして異国文化が入り混じる環境の中で、
 佐世保の歴史と文化に触れながら俳句を嗜む～

小・中・高校生の部

都道府県	応募句数	応募者数
北海道		
青森県		
岩手県		
宮城県		
秋田県		
山形県		
福島県		
茨城県		
栃木県		
群馬県	2	1
埼玉県	4	2
千葉県		
東京都		
神奈川県		
新潟県		
富山県	239	123
石川県		
福井県		
山梨県		
長野県		
岐阜県		
静岡県		
愛知県	252	126
三重県	2	1

都道府県	応募句数	応募者数
滋賀県	2	1
京都府		
大阪府	16	8
兵庫県	232	116
奈良県		
和歌山県		
鳥取県		
島根県		
岡山県		
広島県		
山口県	42	30
徳島県	4	2
香川県		
愛媛県	2	1
高知県	116	58
福岡県		
佐賀県		
長崎県	2,294	1,405
熊本県		
大分県		
宮崎県		
鹿児島県		
沖縄県		

応募句数合計 3,207

応募者数合計 1,874

第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭
 ながさきピース文化祭2025
 させぼ「俳句の祭典」

～海と山、そして異国文化が入り混じる環境の中で、
 佐世保の歴史と文化に触れながら俳句を嗜む～

一般の部

都道府県	応募句数	応募者数
北海道	12	3
青森県	2	1
岩手県	6	3
宮城県	2	1
秋田県	2	1
山形県	10	1
福島県		
茨城県	4	2
栃木県		
群馬県		
埼玉県	10	5
千葉県	28	4
東京都	48	12
神奈川県	22	7
新潟県	2	1
富山県		
石川県	4	2
福井県		
山梨県		
長野県	2	1
岐阜県	4	1
静岡県	2	1
愛知県	26	10
三重県	32	5

都道府県	応募句数	応募者数
滋賀県	16	2
京都府	32	8
大阪府	34	10
兵庫県	12	5
奈良県	2	1
和歌山県	4	2
鳥取県	4	1
島根県		
岡山県	8	3
広島県	10	1
山口県	32	11
徳島県		
香川県		
愛媛県		
高知県		
福岡県	70	13
佐賀県	6	2
長崎県	672	139
熊本県	10	1
大分県	38	14
宮崎県	10	1
鹿児島県	16	4
沖縄県		

応募句数合計 1,194

応募者数合計 279

第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭
ながさきピース文化祭2025

させば「俳句の祭典」

「海と山、そして異国文化が入り混じる環境の中で、
佐世保の歴史と文化に触れながら俳句を嗜む」

発行日 令和7年10月26日

改訂日 令和7年11月30日

発行 ながさきピース文化祭2025佐世保市実行委員会

事務局 〒857-0863

長崎県佐世保市三浦町2-3 アルカスSASEBO

印刷 〒857-0134

長崎県佐世保市瀬戸越4丁目1413-19

有限会社立山印刷